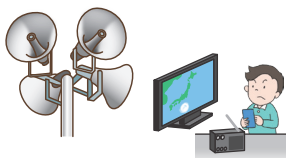


避難時の心得

情報収集と自主避難を

防災行政無線・テレビ・ラジオ・インターネットなどで最新の防災気象情報・避難情報に注意して、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



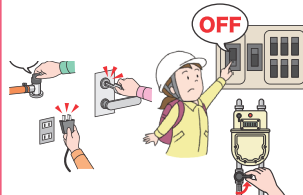
お年寄りや身体の不自由な人、小さな子どもを優先する

お年寄りや体の不自由な人は背負うなどして、一緒に避難しましょう。はぐれないようにお互いの体にロープを結んでおくと、子ども連れでも安心できます。



避難する前に確認を

避難する前には、ガス栓やガスメーターを閉め、テレビなどのスイッチを切り、電気のブレーカーを落としましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色の物がよいでしょう。



水面下は危険です 2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心掛けましょう。



徒歩で避難を

車での避難は、浸水すると動けなくなります。基本的には徒歩で避難しましょう。



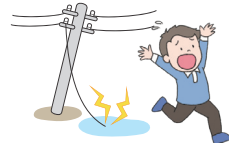
2階以上へ避難を

外へ出ることが危険と感じた場合は、自宅や近くの建物の2階以上に避難し、水が引くのを待ちましょう。



危険なところには近寄らない

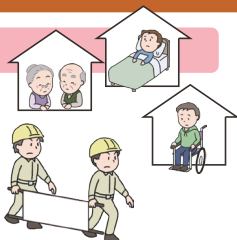
切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているのので、触らないように気を付けましょう。



災害時の助け合い

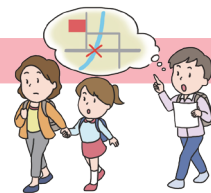
災害時に支援が必要な人に優しく接しよう

災害時に、大きな被害に遭いやすいのは、要配慮者と呼ばれる人たちです。要配慮者とは、高齢者や子ども、障がいのある人、妊産婦、乳幼児、外国人など、配慮が必要な人たちのことです。いざというときは、地域のみんなで協力して要配慮者を支援しましょう。



要配慮者になったつもりで防災環境の点検を

目や耳の不自由な人や外国人に向けた防災気象情報・避難方法が正しく伝えられるのか、放置自転車などの障害物は無いかなど、日頃からの点検が大切です。



あらかじめ要配慮者の支援体制を決めておこう

一人の避難行動要支援者*に複数の住民が支援するなど、具体的な支援体制を決めておきましょう。隣近所での助け合いがとても大切です。

*要配慮者のうち、避難するときに特に支援が必要な方を避難行動要支援者といいます。



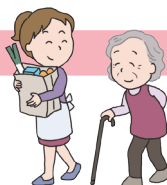
困ったときこそ温かい気持ちで

非常時こそ、強い不安を感じている人に優しく接することが必要です。困っている人や要配慮者には、思いやりの心を持って支援しましょう。



日頃から積極的なコミュニケーションをとろう

災害時に円滑な支援活動をするために、日頃からコミュニケーションをとっておくことがとても大切です。



高齢者・病人

あらかじめ支援者を決め、2人以上で対応し、車いすや担架を使うほか、緊急時は背負って避難します。



目の不自由な人

まずは声を掛け、誘導するときは腕を貸してゆっくりと歩きます。できるだけ状況を言葉にして伝えましょう。



耳の不自由な人

お互いに顔を向け合い、大きく口を動かして話しかけます。伝わりにくい場合は、身ぶり手ぶりで伝えます。



車いす利用者

階段では2人以上で援助し、昇りは前向き、降りとは後ろ向きに移動します。1人の時は背負って避難します。



旅行者・外国人

孤立させないように話しかけます。通じない場合は、やさしい日本語や身ぶり手ぶりで伝え、道順などは手で方向を示します。

